

Hitachi Cloudを基盤に全国展開を開始した デジタルシネマ配信管理システム「HONOLUA」

課題

デジタルシネマのデータ配信システムを迅速かつ低コストに立ち上げたかった

解決

Hitachi Cloud上にJP1/Data Highwayを活用した新システム「HONOLUA」を構築

効果

HDDへのコピーやデリバリーを必要とせず、全国劇場への一斉配信が可能に

日本の映像産業を支え続けて80年余

1935年、日本初の商業ラボとして創業した株式会社IMAGICA（以下、IMAGICA）は、映画やテレビ番組、CMなどのポストプロダクション^{※1}、流通・運用までをトータルに支援する映像技術サービス企業です。フィルムからビデオ、そしてデジタルへの変遷を先取りした技術開発とサービスで映像産業をサポートし続けてきたIMAGICAは2016年3月、新たにデジタルシネマ配信管理システム「HONOLUA」^{※2}の提供をスタート。全国の劇場にネットワークを利用して効率的な配信を行う同システムの基盤には、高信頼のクラウドサービスHitachi Cloudと、大容量ファイル転送ソリューション JP1/Data Highwayが活用されています。その開発の背景を、メディア制作事業部 副部長 デジタルメディアプロデュースグループ 課長の青田 匡史^{ただし}氏は「5年ほど前から映画の上映媒体は35ミリのアナログフィルムに代わり、デジタルデータであるDigital Cinema Package（以下、DCP）^{※3}が主流となっています。当社は映画配給会社さんからお預かりした作品を全国の興行会社さん（劇場）にお届けし、円滑な上映をサポートする

ビジネスを展開していますが、これまでDCPは人手でハードディスクドライブ（HDD）にコピーし、当社指定の配送業者で劇場にデリバリーしていました。しかしDCPは1作品数百GBという大容量のためコピーに手間と時間がかかるほか、物理メディアであるため配送中の故障リスクも避けられません。また、上映前の作品には高いセキュリティが求められるため、いくら暗号化されたデータとはいえ配送過程での紛失も心配要因の一つでした。そこでネットワーク環境の進展を見据え、数年前から人手を介さずDCPを劇場にネットワーク配信する新システムの開発に着手したのです」と振り返ります。

^{※1} 映像の撮影終了後に行われる作業の総称。映像編集や特殊効果、テロップなどの挿入や映像に合わせ、音楽・効果音・ナレーションなどの追加が含まれる

^{※2} 登録商標出願中

^{※3} 暗号化・圧縮化された映像・音声・字幕データを含む上映用ファイル

日立のクラウド基盤と高速データ配信技術を採用

「データ配信基盤の選定では複数ベンダーのソリューションを検討しましたが、当社の要件に最も合致したのが日立さんの提案でした」と語るのは、新システムの企画・構築を担当した技術統括室 R&Dグループ チーフエンジニアの

鈴木 隆文氏です。

「まず、新たなデータ配信ビジネスを立ち上げる際の事業リスクをヘッジする仕掛けとして、サーバなどのリソースを自社調達しなくてもよいクラウドを提案されたのは日立さんだけでした。これなら配信先の増加に対応した柔軟なリソース拡張が可能となり、安心してサービスを開始できます。技術面でも、配信エンジンとなるJPL/Data Highwayは専用線を使わずともインターネット経由で高速・安全・確実にデータ伝送する仕組みを持っており、コストパフォーマンスに優れていることも魅力でした。お客さまに提供するサービスの価格を抑えながら、劇場にDCPファイルを実際にお届けしたいという当社のニーズに最適なソリューションだったのです」と鈴木氏は続けます。

また、サービスを全国展開する際の保守サービスの手厚さも重要な選定条件だったと話すのは、メディア制作事業部 デジタルシネマグループ 課長の岡田 健氏です。「当社がDCPを配信する劇場は全国いたるところにあります。そこには専用の受信サーバを設置しますが、万一故障が起きた際にも迅速に復旧しなくてはなりません。その点、日立さんなら全国どこに



株式会社IMAGICA

本店所在地 東京都品川区東五反田2-14-1
 創 立 1935年
 資 本 金 3億1,000万円
 事業内容 撮影・映画・TV番組・CM・PRなどの映像・
 音声編集、DCP作成、コンテンツ流通・
 配信サービスなど



でも保守サービスの拠点があり、24時間休まず対応してくれます。これなら安心して全国にサービス展開できると判断しました」と岡田氏は選定の理由を語ります。

**大容量の映像データを
全国に一斉配信**

Hitachi Cloudを基盤にIMAGICAが構築した劇場向けデジタルシネマ配信管理システムは「HONOLUA」と名づけられました。「ホノルアとはハワイ語で“二つの湾”を意味する有名なサーフスポットです。NTT東日本・西日本さんが提供されているNGN※4、フレッツ光などを利用して、東西二つの日立のデータセンターが展開するシステムイメージが、この言葉にぴったりだったことで命名しました」と鈴木氏は笑顔で語ります。

映画業界で長年にわたって培われた経験・業務ノウハウが反映されたHONOLUAは、大容量の映画本編DCPを各劇場に設置した専用受信サーバにネットワークを利用して効率的に配信することができるシステムです。Web上から各劇場の業務スケジュールに合わせて配信を指示したり、進捗状況しんちよくをリアルタイムで確認したりすることができるほか、日立が24時間365日体制で遠隔監視・運用をサポート。「日立さんに、データの所在や配信状況を見える化できる機能を実装していただいたおかげで、運用も非常に容易です。ネットワーク側のトラブルでデータ配信が失敗したような場合にも、われわれ担当者にメールでアラートが飛んでくるので迅速にアクションが起こせます」と鈴木氏は日立の対応を高く評価します。

これによりIMAGICAは膨大な数に及ぶHDDのコピーやデリバリーの必要がなくなり、日立のデータセンターにDCPを

アップロードするだけで劇場への一斉配信が可能となりました。

「これまでHDDで受け取っていた興行会社さんからも、HONOLUAを活用することで、

上映サーバへのDCP取り込みなどに関わる手間や負荷の軽減、業務効率化にご期待をいただいております。現在は予告編やシネアド(本編上映前に流されるCM)を中心に配信を行っていますが、配信会社・興行会社さん双方の準備が整いしだい、本編の伝送も実施していく予定です」と岡田氏は今後の抱負を語ります。

※4 Next Generation Network

**さらなるサービス拡張を
志向するHONOLUA**

「HONOLUAは安全で確実な劇場上映をサポートしていくうえで欠かせない基盤

となるはず。当社は今後、国内外の配信会社さんに広くHONOLUAを展開していく一方で、興行会社さんが望まれる機能も随時反映しながら、サービスをより使いやすく便利に拡張していきたいと考えています。そのためにも日立さんには末永くビジネスパートナーとしてのご支援、ご協力をお願いしたいと思います」と青田氏は語ります。

最新のテクノロジー開発で、進化し続ける映像ビジネスの現場をトータルにサポートするIMAGICA。グローバルに成長を続ける同社のビジネスを、これからも日立は最新のサービスとソリューションで支えていきます。

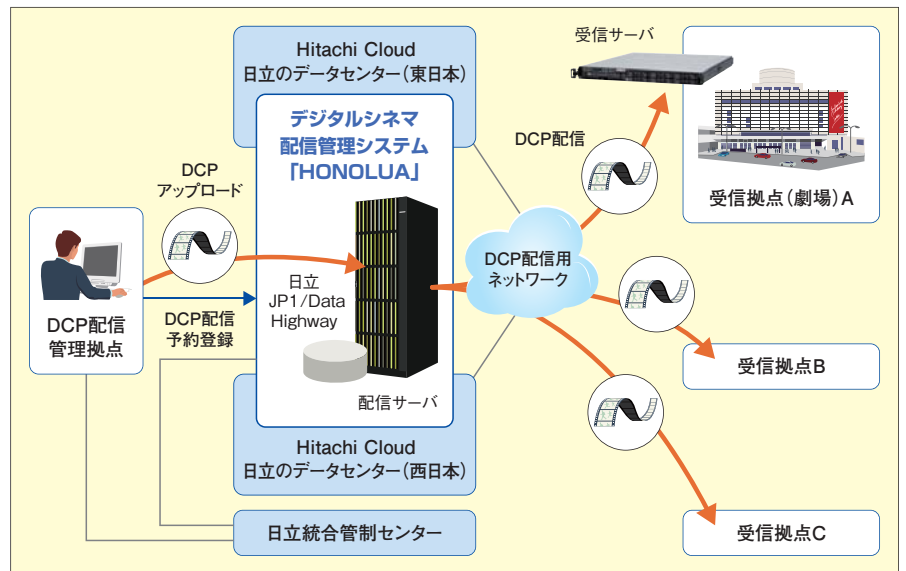


岡田 健氏

株式会社IMAGICA

青田 匡史氏

鈴木 隆文氏



デジタルシネマ配信管理システム「HONOLUA」の概要

お問い合わせ先

(株)日立製作所 社会システム事業部
<http://www.hitachi.co.jp/products/it/society/>

■ 情報提供サイト
<http://www.hitachi.co.jp/cloud/>
<http://www.hitachi.co.jp/jp1/products/list/dh/>